

人も、車も、減ってるのに…三鷹駅北口のロータリーを2つに？

今年3月、市は「三鷹駅北口交通環境基本方針の策定に向けた考え方」を示し、2年かけて市民や関係者と意見交換等を行い、方針を定めると発表しました。

現状の問題点として、駅前広場への車の流入、朝夕の送迎などの路上駐停車、人と車の動線の交錯などをあげ、これらを解決する「考え方」として、①周辺道路の交通体系の再編、②2ロータリー化、③駅前広場の拡張という案が示されています。それぞれに「効果」と「課題」があり、すべて実施しなければ交通環境の問題は解決できないとしています（詳細は下記HP）。

http://www.city.musashino.lg.jp/shisei_joho/machizukuri/mitaka_machizukuri/1031439.html (右図は抜粋)

これまで、市は、東から中町新道を通り西へと駅前広場を通過する車の流れを減らすために、北側を迂回する補助幹線道路の整備を進めてきました。土地買収は73%以上済み、中町新道から中央通り、三鷹通りへ抜ける新しい道路が整備されています。

予算委員会では、こうした駅前への車の流入を減らす方針と、ロータリーを2つに増やし車を誘導する案は、相反するのではないかと指摘しました。

最新の国土交通省の調査で、昨年後半の首都圏の通勤時間帯のJR乗降客数は、テレワーク等により前年同期と比べ6~7割に減少し、また、車の交通量は、過去30年間で3分の1に減っています。

正面の世界連邦平和像から、銀杏並木がまっすぐ続く景観は、北口のシンボルともいえる街の宝物。市民や関係者の十分な議論と合意が不可欠です。



他人事ではない！ 陥没事故 外環道は「無期限」凍結を

昨年10月、調布市内の住宅街で起きた、東京外かく環状道路（外環道）トンネル工事による陥没事故。その後の調査で、3か所の地下空洞が見つかり、事業者のNEXCO東日本は、一連の陥没や空洞は、トンネル掘削工事が原因と認めました。付近では、原因不明のガス管等のひび割れも相次いでいます。

写真下：150名近い参加者で満員の本宿小学校での説明会



昨年、新型コロナの拡大でやむなく中止となった長崎市への中高生の平和交流派遣団。武蔵野市平和の日条例制定から10年を迎える今年、あらためて派遣することになりました。

現地での交流や平和祈念式典の参加などを通して、若い世代に平和の尊さが引き継がれますように（智）

陥没事故から半年、事故の調査結果と今後について沿線区市で順次説明会が行われ、武蔵野市では4月4日の説明会に大勢の市民が詰めかけました。

外環道は、東名（世田谷区）～関越（練馬区）間の住宅地16.2kmを、地下40mより深い大深度地下トンネルで結ぶ公共事業です。住民の不安をよそに、国も事業者も地上には影響がない工法としてきましたが、その「安全」という前提は崩れました。

説明では、陥没や空洞が発生した現場一帯の住民は、地盤改良などの補修工事のため移転もしくは立ち退きを求められます。地盤改良できなければ、トンネルは掘れない、しかも、この先、同様の事故が起きないという保証は無い…大深度地下トンネル工事ありきで、住民に立ち退きを強いるなど言語道断です。同様の地盤は武蔵野市内にもあり、住民の方々の驚きと不安、怒りは、他人事ではありません。

もはや、外環道は「無期限」凍結しかありません。

内山さと子 プロフィール

- ◆東京生まれ 東京女子大学文学部史学科卒業
- ◆1995年～NPO法、食の安全、環境問題に取り組む
- ◆2001年～都議会政策調査会スタッフ
子ども化学物質対策、子育て・介護の複合課題を調査
- ◆2007年～市議会議員（無所属4期目）
- ◆UR緑町パークタウン団地在住